

「介護の質」にこだわって東京で5施設展開へ

この4月1日、東京都北区のJR京浜東北線東十条駅南口沿いに認可保育園、キッズタウン東十条（定員90人）をオープンさせた。JR東日本本社の子育て支援本部地域貢献グループの駅前保育園事業者公募で選ばれ、130坪のJR敷地を有償貸与された。特色は一般保育だけでなく、障害を持つ子どもの児童デイサービスI型（10人：障害者自立支援法）を併設したことだ。JR側は最初「前例がない」と消極的だったが、廣江理事長は「子どものときから障害児と一緒に育つことは大事」と訴え実現した。いかにも廣江氏らしいこだわりだ。これでこうほうえんグループは東京地区で4施設目。2008年に川崎市多摩区の社会福祉法人柊形鳳翔会の経営を継承し、介護老健施設の遊花園（98人・デイ30人）を運営しているの、首都圏で5施設目ということになる。

07年に北区浮間に区の誘致により幼老一体型の複合福祉施設、ヘルスケアタウンうきま幸朋苑を開設、念願の東京進出を果たした。さらに09年3月には品川区の廃校となった小学校を無償で借り受け、ヘルスケアタウンにしおおいとして再生させた。これも全国公募を勝ち抜いたもので、ここも高齢者住宅（42戸）、認可保育園（0～5歳児まで100人）、元気高齢者の介護予防拠点いきいきセンターなどが複合化された幼老一体型の独自の施設だ。これだけではない。さらに来年4月には江東区が南砂に開設する保育園、小規模多機能施設とグループホーム（ユニット2）など複合施設を指定管理者として運営していくことになっている。グループ初の公設民営方式の受託だ。この東京4施設はいずれも公募に

より経営の質とサービスの質を厳しくチェックされたもので、こうほうえんのケアの質が評価された結果とっていいだろう。

廣江氏の日ごろの口癖は「介護施設の勝負どころはサービスの質がすべて。利用者から満足され感動を呼びさらに感謝されるまで、ひたすら研修と努力の継続だ」。業界では先頭を切って品質管理の国際規格ISOを取得し、自主的に第三者評価を受けている。また10年財団法人日本生産性本部主催の第9回ハイサービス日本300選に社会福祉法人として初めて選定された。グループ全体で行う年1回の研究大会には毎回500人が参加し、発表演題も今年は150余に上った。抄録集の充実ぶりは他を圧倒する。排泄ケアのきめ細かさなどは感動すら覚える。介護業界全体の質を高めるため、ゆくゆくはサービスの質と経営の質を評価する第三者評価制度をきちんと構築すべきだとし、専門家に依頼して科学的な質評価システムの確立を目指している。

廣江氏は今年70歳になった。長男（42）の医師で副理事長に順次権限を委譲し、自らは首都圏での展開に全力を投入する。この4月、東京事業本部長に厚労省の大物OBを迎えた。東京都では特養ホームの待機者は4万5000人。この10年で要介護者は2倍の42万人になった。介護ニーズはまだまだ高まる。

グループの来年の同時改定へ向けての目標は地域包括ケア体制の確立で、「向こう3軒両隣の再生」を掲げる。当面は東日本大震災の復興で、介護施設の建築構造の在り方の長期ビジョンを打ち出すこと。内外ともにリーダーシップは強烈だ。

社会福祉法人こうほうえん理事長
社会福祉法人柊形鳳翔会理事長
全国社会福祉施設経営者協議会介護保険事業経営委員長

廣江 研氏

ひろえ・けん氏

1941年2月鳥取県生まれ、70歳。明治大学経営学部卒。川崎医療福祉大学大学院医療福祉学科修士課程修了。20年間病院経営に携わった後86年、鳥取県境港市に社会福祉法人養寿会設立、特別養護老人ホームさかい幸朋苑事業開始、以来県下で老人保健施設、訪問看護ステーション、デイサービスセンター、グループホーム、ケアハウス、保育園事業などを展開。2006年3月錦海リハビリテーション病院（48床）開設。07年東京都北区浮間にヘルスケアタウン、うきま幸朋苑を開設（特養ホーム・デイサービス、ショートステイ、知的障害就労支援施設、保育園・夜間保育園）、08年川崎市の社会福祉法人柊形鳳翔会を継承し理事長に。09年東京都品川区西大井にヘルスケアタウンにしおおい（高齢者住宅42戸、保育園100人、シルバーセンター）を開設。11年4月1日、東京都北区東十条に認可保育園、キッズタウン東十条（90人）、児童デイサービス、アトリア開設。日本山岳会会員。元米子青年会議所理事長。元植村直己第2次捜索隊長。

